

町の特色触れ興味抱く

法政大 留学生が松川町長と懇談

法政大国際文化学部（東京都）で学ぶ中国と韓国の留学生ら5人が7日、松川町役場を訪れ、同大OBの深津徹町長と懇談した。留学生は3日から7泊8日の日程で、研修のため飯田下伊那を訪れている。留学生たちは町の特色や魅力を聞き、興味を寄せていた。

留学生の研修は4年目の取り組み。ことしは3日から始まり、天龍村の平岡ダム、飯田市の川本喜八郎人形美術館やデイサービス施設、阿智村の満蒙開拓平和記念館を訪れ学んでいる。5日目のこの日、町役場で深津町長らと懇談した。深津町長は果物の栽培が盛んで「く

だもの里」と呼ばれる町内の取り組みを紹介。12年後に開業予定のリニア中央新幹線に触れると「この町も変わっていく。リニアができた時に、訪れる人が増えるようなアイデアが何かあれば」と投げ掛ける場面もあった。

町内には2日間滞在し、農作業を体験したり、戦時中の防空監視

出身のユン・ヒョジンさん（19）は「果物が大好きでとつても楽しみです」と笑顔で語った。

また1日目は増野地区で開拓の歩みを聞いた。増野の開拓は1947（昭和22）年に始ま

り、増野開拓組合によると、32戸が入植、開墾。このうち19戸は旧満州（現中国東北部）からの引揚者だった。現在は2世、3世が中心。今でも入植者32戸のうち30戸が暮らしている。同行している同大

国際文化学部の高柳俊男教授（59）は「東京だ本は多文化であり、こる。



深津町長と懇談する留学生ら

ういった機会に文化や自然、風土などを違った視点で見てもらいたい」と話した。

9日は留学生3人による研修成果発表会が飯田市公民館で開かれ

きょうの紙面

- 2 矢作川源流の絵図が完成
- 3 竜丘の水辺の楽校交流イベント
- 4 OIDE長姫8強入り
- 5 読者文芸のページ
- 8 竜峡小唄で天龍峡をどり
- 9 法政大留学生ら松川町長と懇談